

【問い合わせ先】

島根県病害虫防除所 [担当：角・澤村]

TEL：0853-22-6772

FAX：0853-24-3342

令和3年度 病害虫発生予察情報 技術情報第3号

令和3年8月2日
島根県病害虫防除所

水稻における斑点米カメムシの発生状況について

斑点米カメムシ類（主にアカスジカスミカメ）の発生が平年に比べて多くなっています。すでに出穂したほ場ではカメムシ類が高密度に生息するほ場が認められます。今後、発生状況の把握に努めるとともに、適切な防除及び雑草管理をお願いします。

1 現在の発生状況

- 1) 7月下旬における出穂した水田の調査において、斑点米カメムシ類の発生ほ場率は61.9%（平年58.2%）、平均頭数は6.62頭/20回振り（平年3.11頭）と平年に比べてやや多い。優占種はアカスジカスミカメであった。
- 2) 出雲市の予察灯（60W白熱灯）におけるアカスジカスミカメ（図1）とアカヒゲホソミドリカスミカメを合計した累計誘殺数が、7月第5半旬までに272頭（平年199.6頭）と平年に比べてやや多い。（図2）
- 3) 中国地方1か月予報（7月31日～8月30日、広島地方气象台7月29日発表）によると向こう1か月の気温は平年に比べて高い確率が50%、降水量は平年に比べて少ない確立が40%と、本種の発生に助長的である。



図1 アカスジカスミカメ（成虫）

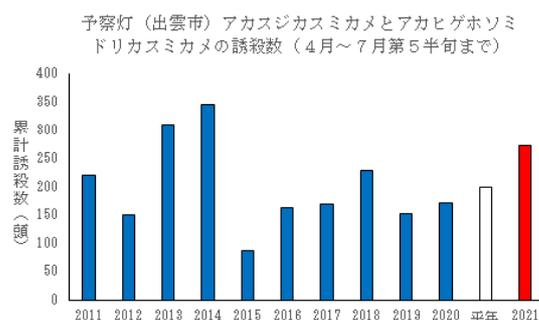


図2 アカスジカスミカメおよびアカヒゲホソミドリカスミカメの合計誘殺数

2 防除対策及び防除上の注意事項

- 1) 粉剤、液剤による防除は、第1回目は穂揃期の3日後、第2回目はその10日後に散布する。粒剤による防除は出穂期～7日後に3cm程度の湛水状態でを行い、散布後7日間は止水状態を保つ。その後は発生に応じて散布する。
- 2) ほ場内のヒエ類などの穂はカメムシ類の増殖源となるので早急に処分する。
- 3) 畦畔などにイネ科雑草がある場合は畦畔を含めて薬剤を散布する。
- 4) 稲の出穂が近くなってからの除草はカメムシを水田内に追い込むことになるので行わない。